

名古屋大学レクチャー2016

一昨日レポートで案内したが、「持続可能な社会への道—戦後公害の歴史的教訓から」というテーマで、宮本憲一先生の講演が11月19日（土）午後13時00分～15時40分名古屋大学豊田講堂で行われる。チラシ裏の案内文から。

「名古屋大学レクチャー」は、名古屋大学にゆかりのある最高水準の研究者を招いて講演をしてもらい、一般市民の方に学問の先端「知」に触れて頂くものです。

本年度は、環境問題について経済学の立場から研究をされている宮本憲一先生にお願いをしました。先生は名古屋大学経済学部を卒業されてから研究生生活に入られ、環境経済学という新しい学問分野を開拓し、発展させてこられました。この分野の第一人者です。その成果が認められ、2015年度の日本学士院賞を受賞されています。

日本は第2次大戦による廃墟の中から出発し、高度経済成長を経て先進国の仲間入りをしてきました。しかし、その過程は平坦ではなく、四大公害（水俣病、新潟水俣病、神通川イタイイタイ病、四日市ぜんそく）を初めとした多くの公害を生みました。一時多くの工業地帯は、煤煙で埋め尽くされ、青空が見えない時代が続きました。被害者となった市民・住民は、訴訟を提起することによってその告発をしてきました。名古屋新幹線公害訴訟、名古屋南部公害訴訟など、この地も例外ではありません。宮本先生は、こうした市民運動や訴訟に支援の手をさしのべてきました。

1970年代以降に生まれた若い人たちは、こうした負の歴史を知らないかも知れませんが、今の日本の環境があるのも、こうした先人たちに依るところが大きいと言えるでしょう。環境問題は、地球温暖化といった形で今日でも重要なテーマです。どうしたら公害をなくし、環境を保全する持続可能な社会が作れるのでしょうか。

宮本先生に、こうした課題へのアプローチについて語って頂きます。

今日が講演1ヶ月前。事前の「申し込み」も必要ですので、詳しくは名大、名大高等研究院のホームページなどから。



(2016年10月19日)